

6 SMBGの電子カルテ取り込みを利用した看護外来

永井 貴子・植田 葉子・金沢美和子
長谷川美由紀・井関 和代・増井しのぶ
谷黒 房子・牧野美佐子・荻原 智子*
濱 ひとみ*・樺沢 佳子*・津田 晶子*
古川 和郎**

木戸病院内科外来看護師
同 内科*
新潟大学第一内科**

【はじめに】当院でSMBGデータの電子カルテ取り込み（以下PCデータ）を行い、血糖（HbA1c）の改善、患者様の行動変容がみられたので報告する。

【対象】主治医と患者様の理解を得たインスリン治療中の445名。

【結果】1誤記や虚偽ができない状況と解析されたデータをもとに効果的な療養生活の取り組みと的確なインスリン投与ができ、自己管理意識の向上と治療効果があがった。3自己管理ノートの記述に誤記の発見。正確なPCデータは治療や療養指導の検討に生かされた。4PC取り込み後も自己管理の振り返りの為、サイドメモ『自己管理ノート』の記載を奨励した。

【まとめ】PC取り込みは効率的なシステムではあるが、システムにまかせず、有効活用できるような指導内容を考慮する。患者様が療養経過のプロセスが理解できるよう支援し、患者様の努力を労い、認めていく事を心がけていきたい。

7 糖尿病地域連携パス利用患者側の意見と運用上の問題点について

本間 則行・外山 美央・中村 元
島 賢治郎・野崎幸一郎・酒巻 裕一
大瀧 陽子*・遠藤 晶子*・渡辺由美子**
山田 邦子***
新発田地区糖尿病地域連携パス研究会

県立新発田病院内科
同 看護部*
同 地域連携センター**
同 栄養課***

【目的】新発田地区糖尿病地域連携パスにより得られた成果を患者側の視点で評価し、連携パスの運用上の問題点を明らかにする。

【方法】連携パス導入患者183名中、1年6ヵ月経過した患者91名を対象とし、郵送法による無記名自記方式質問紙調査（2011年4月実施）で行った。

【結果】自身の血糖コントロール状況の自己評価は、5段階尺度で、インスリン療法群3.0、非インスリン療法群は3.83と後者で良好であった。療養指導の満足度調査では食事療法、運動療法については満足度が高い傾向にあった。パス離脱数が、全体の29%で、離脱理由は血糖コントロール悪化が最も多かった。

【考察】連携パス運用上の問題点は、離脱率の高さ、連携医と患者の相性の問題、診療情報（検査データ、処方内容）の受渡し不十分などであった。対策としては、連携医向け研修会の促進、連携医選択時の情報提示の工夫、糖尿病療養手帳への情報一元化、お薬手帳の利用が必要と考えられた。

8 済生会新潟第二病院における糖尿病黄斑浮腫の治療成績

安藤 伸朗・中村 裕介・大矢 佳美

済生会新潟第二病院眼科

【背景】糖尿病網膜症の治療目標は、視力の改善である。硝子体出血や網膜剥離、続発性緑内障など重症眼合併症による視力低下は硝子体手術等の